

多くの歯科医師・歯科衛生士の方々が、今この時も全国各地で予防歯科に取り組んでいます。「LION Dent. File」では、時代の趨勢となっている予防歯科への潮流の中で、日々活躍されている歯科医師・歯科衛生士の方々のさまざまな取り組みについてご紹介します。

仁徳天皇陵を始め、数多くの古墳が集まる百舌鳥古墳群が位置する堺市北西部。この地で3代続く歯科医院が藤井歯科医院です。院長である藤井諭先生は、日々の診療を重ねる中で次第に予防の必要性を強く感じるようになり、6年前に医院全体の方針として予防歯科に大きく舵を切りました。現在もより良い歯科医療を目指して試行錯誤の連続だと言いますが、既にメインテナンスの考え方が患者にも定着し、手応えを感じているそうです。予防歯科への転換に成功した秘訣について、お話を伺いました。

歯の治療が嫌いだった 歯科医院の子ども。

うちは祖父も父親も歯医者です。そういう環境で子ども時代を過ごすとはどうなるかというところ、むしろ歯が見つかるように削られるわけです(笑)。私はそれが本当に嫌で、できれば歯の治療はされたくない、というも思っていました。ただ、仕事をしている父親のことは好きでした。結局は私自身も歯医者の道に進むことになり、大阪歯科大学に入学して、歯科麻酔学で大学院にも進みました。

大学院時代は少し時間に余裕があったので、図書館でさ

さまざまな文献を読んだのですが、私が初めてフッ素推進の運動を知ったのはその頃です。自分自身の子ども時代の思い出もありましたから、フッ素を利用することが予防になって、治療しないで済むようになるのならそれは良いな、と思いました。とはいえ、当時はまだほんの部の動きに過ぎず、副作用の面で疑問を唱える声も多い時代でしたから、私も本格的に予防歯科を学ぶところまではいきませんでした。

自身の診療スタイルへの疑念と スウェーデンスタイルとの出会い。

その後、平成2年にこちらに戻ってきて開業歯科医としてのキャリアをスタートさせました。当初はずっと『削って、詰めて』という従来通りの歯科医院のあり方を続けていたのですが、開業医をずっと続けているとそのうちに、自分が治療した患者さんの歯がまた悪くなって戻ってくる、という繰り返しになっていることに気がきました。歯が悪くなる原因を放置したまま、その場しのぎの治療をしているわけですから、時間が経てばまた悪くなるのは当然といえば当然です。

そういうことを強く感じていた時に、あるきっかけで歯周病学の大家であるイェテボリ大学のヤンバンストレム教

歯科衛生士のための 環境作りも考慮し、 予防歯科への 転換を推進

大阪府堺市 藤井歯科医院

院長 藤井 諭 先生



